

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科					
科目名	電磁気学Ⅱ					
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年後期	
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)／必修科目(電気エネルギーコース)／選択必修科目(情報システムコース)					
担当者	江上 典文					
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静磁界の基本量の記号や単位を覚える。(A2)</li> <li>・真空中に複数の直線電流を流したときの磁界を求めることができる。(A2)</li> <li>・コイルに電流を流したときの磁界を求めることができる。(A2)</li> <li>・単純な場合の自己インダクタンスを求めることができる。(A2, A7)</li> </ul>					
日程と内容	9/19 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、磁極と磁界 9/26 電流がつくる磁界 10/10 磁束密度に関するガウスの法則 10/17 アンペールの法則 10/24 電流に働く磁気力 10/31 荷電粒子に働く磁気力 11/7 磁性体 11/14 電磁誘導 11/21 自己誘導 11/25 相互誘導 11/28 磁気エネルギー 12/5 交流の基礎、交流回路 12/12 電流と磁界のまとめⅠ 12/19 電流と磁界のまとめⅡ 1/9 総合演習 1/16 定期試験					
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%		
	臨時試験	0%	部外評価	0%		
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%		
	課題	0%				
	演習	30%	計	100%		
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静磁界の基本量の記号や単位を覚える：達成</li> <li>・真空中に複数の直線電流を流したときの磁界を求めることができる：達成</li> <li>・コイルに電流を流したときの磁界を求めることができる：達成</li> <li>・単純な場合の自己インダクタンスを求めることができる：達成</li> </ul>					
反省点	学習の効果を随時、チェックするため、成績評価を定期試験70%、臨時試験30%から定期試験70%、演習30%に変更した。授業では、11/25の後半および11/28の前半に過渡応答回路を、12/5に交流回路を講義したが、内容に対して時間が若干、タイトであった。					
来年度の計画	反省点を踏まえて、授業計画の見直しなどにより、講義内容および時間のバランスを図る。					
授業評価アンケートに対するコメント	平均を下回る項目はなかったものの、講義が難しかったと回答した学生も数名いたことから、講義内容をより噛み砕いて説明するよう心がけたい。					
履修登録者数	70名	定期試験 受験者数	60名	合格者数	55名	合格率 92%